美馬市誕生から20年
過去を振り返り、未来へ挑戦

令和7年3月　美馬市長 加美 一成

3月1日、旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町および木屋平村の合併により美馬市が誕生して20年の節目を迎えました。

この20年間、穴吹庁舎への市役所機能の一元化をはじめ、公共施設の再編による地域交流センターミライズの整備、江原・美馬・穴吹各認定こども園や美馬小学校の建設、美馬環境整備組合による拝原最終処分場の整備など、合併後の美馬市の基盤づくりを進めることができました。また、懸案でありました吉野川環境整備組合 吉野川浄園の移転整備についても、新施設の供用開始を目前に控えております。多くの市民の皆様、そして関係者の皆様のご理解、ご協力に心から感謝申し上げます。

美馬市では、この20年間で少子・高齢化が進行し、人口も合併時から、およそ9，000人減少いたしましたが、高齢化が進み、人口が減少しても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう、「100歳人生」の後半期に、健康で美しく、活躍いただくための取組や、デジタル地域通貨MIMACAの活用による地域経済の好循環を創出する取組、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策などを進めるとともに、「美馬市で子どもを生み、育てて良かった」と実感いただけるよう、子育て世代の皆様への支援も充実させていきたいと考えております。

来る5月24日、20周年記念式典の開催を予定しているほか、小・中学生による大阪・関西万博の体験や、20周年を記念したMIMACAのプレミアムチャージイベントなど、11月の文化祭までの期間に、様々な記念事業を予定しておりますので、市民の皆様とともに20周年を祝うことができれば幸いです。

今後も、目指すべき将来像である、「美しく駆ける 活躍都市 美馬」の実現に向け、様々なチャレンジを続けてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げ、市制20周年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。

広報紙も創刊20周年

美馬市は、令和７年（2025年）３月１日に市制施行20周年を迎えました。
これを記念し、広報みまに掲載された過去の行事を写真で振り返ります。
懐かしい思い出がよみがえる方も多いのではないでしょうか。
また、次号以降も市制 20 周年記念事業を特集していきます。皆さまとともに、この節目の年をお祝いできれば幸いです。
これからも広報紙「広報みま」をよろしくお願いいたします。

平成17年（2005年）3月「美馬市」が誕生

3月1日、脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村の4町村が合併。私たちの新しいふるさと「美馬市」が発足しました。

平成17年（2005年）5月
黄門様ご一行がやって来た

「この紋どころが目に入らぬか」テレビの人気時代劇『水戸黄門』のロケが、脇町で行われました。撮影は主に、うだつの町並みの通りや、旧吉田家住宅で行われました。

平成17年（2005年）8月 穴吹川筏下り大会

旧穴吹町の夏の恒例イベントとして開かれてきた「穴吹川筏下り大会」。美馬市となった後も大会はそのまま引き継がれました。美馬市誕生記念となった第19回大会では、県内外から参加した85隻約450人がゴールを目指して懸命にオールをこぎました。
（写真は平成19年筏下り大会写真コンテスト優秀作品）

平成17年（2005年）8月
夏の風物詩うだつのまちの阿波おどり大会

この年は美馬市誕生を記念して、従来の県道鳴門・池田線の脇町商店街筋に加え、うだつの町並み通りも演舞場となりました。市外2連を含む10連が踊り込み、詰め掛けた観光客ら約3千人を楽しませました。

平成19年（2007年）11月
假屋崎省吾さんによる「うだつをいける」初開催

假屋崎省吾さんが 、河野メリクロンから提供していただいた洋ラン120本を約4時間かけ、吉田家住宅に次々に飾り付けました。
11月26日の開会日には約300人の方が訪れ、連日多くの方で賑わいました。

平成21年（2009年）5月
「水辺の楽校」が開校

美馬町の中鳥川沿いに完成した、身近な河川を子どもたちの自然体験活動の場とする「水辺の楽校」の開校式が行われました。約300人が参加した開校式では、地元の重清西小学校と幼稚園の児童・園児の皆さん計114人がそれぞれ木の板に描いた絵を張り付けたモニュメントの除幕式をスタートに、さまざまな自然体験イベントが行われ、子どもたちの歓声が終日響いていました。

平成27年（2015年）9月
第22回高円宮牌グラススキージャパンオープン

中尾山高原グラススキー場などで独立行政法人日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじ助成金を受けて、第 22回高円宮牌グラススキージャパンオープンが行われました。高円宮妃殿下も競技をご覧になり、選手たちのすばらしい滑走にあたたかい拍手を贈られました。